

特定非営利活動法人 富山中途失聴者・難聴者友の会

(略称 富難友の会)



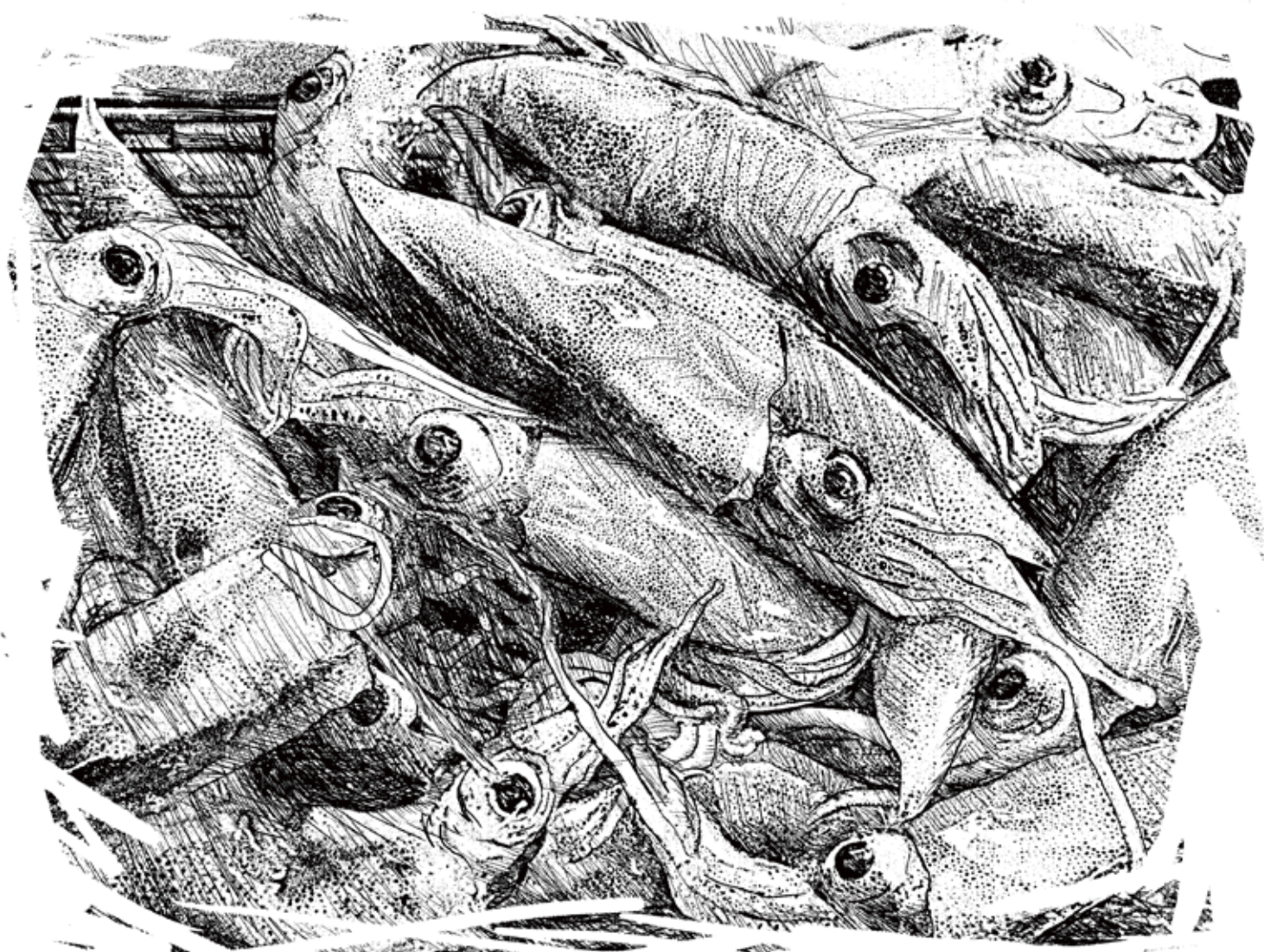
耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークでもあります。

# とみなん

難聴ってなあ〜んだ!!

会報



ホタルイカ

特定非営利活動法人 富山中途失聴者・難聴者友の会は、富山県内外に在住する中途失聴者・難聴者をはじめ、広く聴覚障害者全般に対して、その自立を支援し、生活・文化・福祉の向上を図るとともに、社会参加のための方法を提供・支援することにより、地域社会に寄与することを目的とします。

No. 2  
2020/6

# 補聴器を換えると性格も変わる

補聴器を装用するとこんな事が起こりました

福村 錦慶

## はじめに

生まれた直後は聴覚に異常はなく、5,6歳頃に発音に異常(幼稚な発音のまま)を見つけ出したので、耳鼻科で精密検査を行った結果、オーディオグラムから両耳感音難聴と診断される。3,4歳頃に風邪を多く引き、治すために薬物を注射した。その副作用により、内耳に障害が起こったものと思われる。幸いにも、低音部分の聴力が残っていた為、低音部の音の聞き分けと、言葉の母音の発音はなんとかできる状態であったが、囁き声や高音部の音が全く聞こえない状態だった。さらに、耳鳴り(耳の奥)では多数の蟬が鳴っている状態(18歳で診断)のまま、今日まで補聴器を装用して生活してきました。補聴器装用により起こったできごとについて年代別に話をします。

## 1. 小学生時代(5歳～9歳)

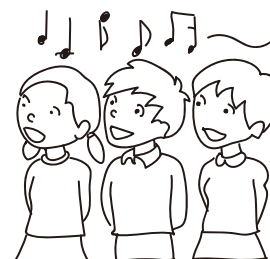
高音部の音に反応することが必要だったため、補聴器を使用して、高音部の音を大きくして内耳に伝えればよい。という周囲の考えから、利き耳である右側の耳にポケット型補聴器を装着することになった。ただし音には反応するが、言葉の一語一語が聞き取れず、発音はうまく出来なかった(本人には自覚なし)。心配した父に国語の本を音読するようにと毎日言われていたが、自分の発音が聞こえないので、おそらく正しく発音が出来ていなかっただろう。



本を音読しても、自分の発音が聞こえない

## 2. 中学～高校時代

裸耳で電話での会話が遠くて聞き取りにくく、補聴器でも聞き取れなかったため、電話での会話はしなかった。部活動は高校3年のとき、コーラス部に入り、発音の訓練のため発声していた。大学受験時、耳の不自由な受験生のための措置をとるようお願いし、2次試験の座席は最前列にもらった。この時代は補聴器を使用しない期間があった。



コーラス部に入って発声訓練

## 3. 大学時代

大学では講師はマイクを使った話し言葉中心の講義が多く、教室もホール型になるので、補聴器なしでは聞き取れないということが分かっていた。ポケット型補聴器を使用するが、高音部のみの音しか聞き取れないため、音重視の補聴器を使用していた。補聴器店に相談して補聴器(耳掛け型)に変えてみるがやはり高音部の音がかなりきつく聞こえ、言葉を聞き取るための補聴器ではなかった。こうして社会人7年目までは右側での補聴器の装着が続いていた。



ポケット型補聴器を使用。言葉が理解できない

## 4. 社会人時代

社会人7年目にして、ようやく転機が訪れることになった。ある日新聞の広告に補聴器の無料相談が自宅近くの公民館であると載っていたので、一人で相談に行ってみることにした。

その場では、今までの考えと違ったことを4つ教えられた。一つ目、感音難聴向けの補聴器として音重



視から言葉重視の聞き分けに重点を置く補聴器を使用すること。二つ目、補聴器を片耳から両耳での装着にすること。三つ目、補聴器を耳掛け型から耳穴式へと変えること。四つ目、補聴器を装着から装用へと考えを変えること。この時期に従来の型とは別の補聴器を購入することを決断した。

### 補聴器を装着するとどうなるのか？

補聴器は初めての耳穴式だった。液体のチューブを両耳に挿入して固まるのを待って無事に左右それぞれの型をとることができた。そして1週間後に補聴器が出来上がった。補聴器を実際に装着する際、補聴器店からは以下の注意があった。

- － 両方の耳から一度に大音量が入り込み、頭が回ります。最初の1週間は雑音に我慢すること。
- － 耳穴はいつも綺麗にふき取る事。補聴器もキチンと手入れする事。

実際、装着すると、以下のようなことが起こった。

- － 音が轟音として聞こえました。→ 頭痛(前頭葉)が多発しました。疲れも重く残る。
- － 音がスローモーションのように、ひとこま、ひとこまが分かるようになった。
- － 自分の声がとても低い声で大音量だった。今まで聞いたことのない音が一体何の音なのか探りあてるのに精一杯であった。とにかく聞こえる音が大音量で自分の足音もキチンと聞こえました。
- － 鳩の鳴き声が今までは出だしの一部しか聞こえなかったが全部聞こえるようになった。
- － 海外旅行(米国:ニューヨーク)をすることで日本と米国での犬の鳴き声の違いが分かるようになった。
- － 音環境がガラリと変わりました。(健聴者は音を聞きながら寝ていることが理解できた。だから、母親は赤ちゃんの夜泣きに気がつくのですね。)
- － どの方向から音が聞こえるのか方向性が分かるようになりました。背後の音に反応ができるようになった。
- － 音に対する反応が以前より速くなった。
- － 会話が早くできるようになった。
- － 電話での会話が以前より弾むようになった。
- － 高音部の音が以前より分かるようになった。
- － 言葉(明瞭度)が以前とくらべて違いが分かるようになった。
- － 性格が明るくなったと言われるようになった。
- － 発音が綺麗になった(こもった声がなくなった)

補聴器を両耳に装着以後は、音読ドリルや発声トレーニングを行うことを継続し、また、人と会話を多くすることで、自分の声を聴きながら補聴器を装用して今日に至っている。

# 「聞こえのサポート講座」報告

福村錦慶、小中栄一、中橋露子

## 令和元年度「聞こえのサポート講座」の概要とアンケート結果

富山市主催の「聞こえのサポート講座」は、加齢に伴い耳が聞こえにくくなる等の変化が人間関係をはじめとした生活のしづらさにつながることから、日頃から高齢者および障害者に関わる方を対象として、耳が聞こえにくい方についての理解や配慮について学ぶことを目的として講義を行いました。この講座は、平成30年度より始まり、今回で2年目となります。主な受講者は、民生・児童委員、地域包括支援センター、介護・障害サービス事業所、医療関係者など参加者は約80人であった。

### <講座の主な内容>

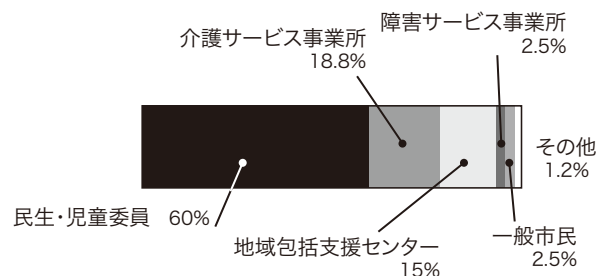
- ・ 耳が聞こえにくくなるとはどのようなことか
- ・ 生活上どのような不便さがあるか
- ・ 聞こえのサポート、コミュニケーションの方法について
- ・ グループでの話し合い、質疑応答
- ・ 簡単な手話の学習

### ■「聞こえのサポート講座」アンケート集計

- ・ 1回目：2019年10月29日(火)、アンケート回収枚数 37枚
- ・ 2回目：2019年11月19日(火)、アンケート回収枚数 33枚
- ・ 3回目：2019年12月17日(火)、アンケート回収枚数 10枚

#### 受講者の所属(3回トータル)

・ 民生委員児童委員	48人
・ 介護サービス事業所	15人
・ 地域包括支援センター	12人
・ 障害サービス事業所	2人
・ 一般市民	2人
・ その他	1人



### ■アンケート設問の回答

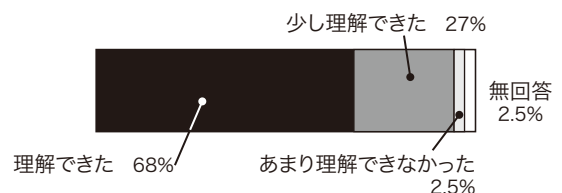
(1) あなたの職場や地域、ご家族に、聞こえない、聞こえにくい人がおられますか。

・ いる	63人
・ いない	18人
・ わからない	0人



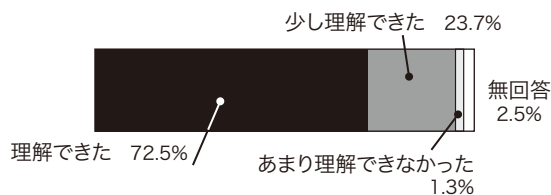
(2) 耳が聞こえにくくなると、どんな聞こえ方になるかについて、理解できましたか。

・ 理解できた	55人
・ 少し理解できた	22人
・ あまり理解できなかった	2人
・ 無回答	2人



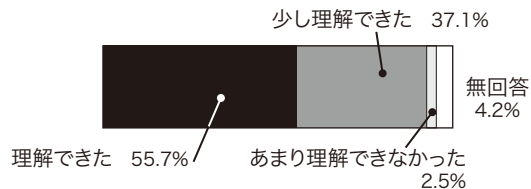
(3) 耳が聞こえにくくなると、どのような不便があるのか、配慮とサポートについて理解できましたか。

- ・理解できた・・・・・・・・・・・・・・ 58人
- ・少し理解できた・・・・・・・・・・・・ 19人
- ・あまり理解できなかった・・・・・・ 1人
- ・無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2人



(4) 福祉制度の説明、コミュニケーションの方法、手話について理解できましたか。

- ・理解できた・・・・・・・・・・・・・・ 39人
- ・少し理解できた・・・・・・・・・・・・ 26人
- ・あまり理解できなかった・・・・・・ 2人
- ・無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人



(5) 今後、聞こえのサポート講座を開催する場合、どんな内容にしてほしいですか。

- ・手話の仕方をもう少し多くしてほしい (民生・児童委員 以後、「民生・児童」と表示)
- ・今回参加してよかった (民生・児童)
- ・補聴器で全て聴こえていると思ったが、違うということが理解できてよかった (民生・児童)
- ・職場などディサービスの職員にも研修してほしい (介護サービス事業所 以後、「介護サービス」と表示)
- ・制度や補助の説明をもっと詳しく知りたい (介護サービス)
- ・福祉制度の利用の方法など、詳しく知りたいと思いました。申請の方法や、障害者手帳、補装具の支給や修理について (介護サービス)
- ・要約筆記の勉強をしたいと思いました (介護サービス)
- ・あらためて、コミュニケーションの方法は参考になりました (民生・児童)
- ・手話をもっと実際にやってみるコーナーがあるとよかったです (介護サービス)
- ・言葉を簡潔にする事の大切さを感じた (民生・児童)
- ・今回初めてだった。補聴器も実際に使って難しい事が分かりました (民生・児童)
- ・今まで知らないことがたくさんありました。とても勉強になりました (民生・児童)
- ・高齢になると難聴者が多くなる理由や原因と難聴防止の方策があれば知りたい (民生・児童)
- ・まずデジベルをきちんとはかるために耳鼻科を受診するということが大切であることがわかりました。手話と表現が連動して相手に伝わるのがわかりました。手話にすこし興味がわきました。(介護サービス)
- ・聴覚障害者の方へのかかわり方、方法を具体的に教えていただけたらありがたいです (民生・児童)

※(重複したご意見、感想などは編集致しました)

# 第25回全国中途失聴者・難聴者福祉大会報告

堀田正美

## 〈あなたの知らないきこえの世界〉

2019年11月23日、滋賀県で開催された全難聴福祉大会。私は第一分科会「あなたの知らないきこえの世界～これからのきこえの健康支援とは何か～」に参加した。今振り返るとこの分科会のタイトルは、開催者がそこまで計算していたかどうかはわからないが、問題の複雑さを示していたと思う。

## 〈技術は進む〉

デジタル技術の発達は人工内耳による聴覚障害の克服の可能性を拓いている。しかしながら、片耳のみ難聴である場合、人工内耳は保険適用にならない。やがては改正されるだろうが、現在、目前の技術の恩恵に浴せない人がいる。

iPS細胞など再生医療の進展にも期待が寄せられているが、まだ未知の分野でもあり、研究の方向性は見えているが、達成には時間がかかる。それでも技術は進んでいくのは確実だ。

## 〈社会的障壁を低くする努力〉

見えない障害へ理解を得ることは難しい。特に多数の人で構成される職場では、さらに問題が多様になる。アンケートで、人工内耳装着者へ職場での問題を調査し、職場の関係者・上司に対し問題への対応を問うて、互いの理解を深めることが続けられている。その成果はまだ見えていない。だが、問いかけを続けることで何か見えてくるものがあるという期待を込めて、努力は続けられている。

## 〈けれど、私の心の問題は〉

努力は続く。数値は改善され、支援の方法も見えてくるだろう。だが、心の問題は？

心理的支援として、専門家によるカウンセリング、非専門家(友人・家族など)によるソーシャルサポート、当事者同士による自助グループなどが挙げられた。それらに対して参加者から「当事者同士のみの交流ではキズのなめあいという状況が起こることがある。やはり専門家がいることが望ましい」という意見が出た。しかし、障害ということを理解できる専門家は少ない。

今回の分科会のパネラーはほとんどが当事者で専門家という立場の人たちだった。以下、私見になるが、「理解できる」とは「当事者である」ということなのだろうか。

「あなたの知らないきこえの世界」というタイトルは、もしかしたら期せずしてこのことを指してしまっているのではないか。「あなた」とは誰なのか。「きこえの世界」とは「聞こえない世界」なのか「聞こえる世界」なのか。「私」には「あなた」のことは決してわからない。研究や事例を集めても、それはあなたのことではない。ことに心の問題は、自分だけの、一人ぼっちの問題だ。支援は支援という誤解かもしれない、支援への期待は過剰なものかもしれない、それを常に心において、少しでもいいほうへ歩み寄っていく以外に方法はない。いつでも最後に思い知る結論に、やはりこの場でも出会うことになったように思う。

第25回全国中途失調者・難聴者福祉大会 2019年11月23日～24日滋賀県立県民交流センター ピアザ淡海

## 〈大会要項より抜粋〉

第1分科会：「あなたの知らないきこえの世界 ～これからのきこえの健康支援とは何か～」

多分野協働研究で話題のメイドインジャパン!新型人工内耳(人工聴覚上皮)の開発の様子、滋賀県での聴覚医療体制の取組をご紹介します。また、難聴者の多くは機能性、心因性といったメンタルな問題を抱えています。実際、補聴器や人工内耳装用においても心理ケアは欠かせません。今回は、遅れがちな難聴者心理支援の在り方についてもお話しをお聞きます。そして、病院の耳鼻科以外のリハビリテーションの現場でも補聴器は大活躍しています。その活用事例などをご報告します。これらの発表をもとにきこえの医療、リハビリの連携強化の必要性を明らかにしていきます。また、グラフィック・ファシリテーションの手法も実演、ご紹介します。

その他に

第2分科会:「要約筆記利用ハンドブック」とQOLを高める

第3分科会:「電話で音声認識は使えるの? ~文字付き電話の可能性と課題~」

第4分科会:「キャリアアップ」 ~聴覚障がい者が企業で生き抜く力~

## 聴覚障害者を含む要配慮者に対する危機管理システムの確立を願って

割山拓身

防災士No. 189588

富山県自主防災アドバイザー(7月より予定)

社会的には、「コロナウィルス」の話題一色ですが、私たちの聴覚障害者を含む要配慮者(高齢者・乳幼児・障害者)に対する防災の社会体制は、どのようになっているのでしょうか?危機に関して、どのようなものがあるのか、どのように対処しなければならないのか?を共有しましょう。

危機(Craicis クライシス)には!

- ・自然災害(Disastar ディザスター) 地震動・火山噴火・水害等・暴風・竜巻・豪雨・豪雪雪害  
洪水・高潮・地震・津波・火山噴火
- ・大事故(Accidennt アクシデント) 火災・爆発・交通事故
- ・事件(Incndennt インシデント) 凶悪犯罪・不祥事
- ・感染症(Virus ウィルス) 新型コロナ・強力インフルエンザ
- ・テロ(Terrororism テロリズム) 爆破・毒物
- ・戦争(War ウァー) 局地戦・核戦争

まずは、自助(自分の命は自分で守る): 家族と待ち合わせの場所を決めておく

共助(遠くの親戚より、近くの他人が頼れる): 自治会長・民生委員と情報共有

公助(警察・消防・自衛隊は、あてにするな!): 腹が立つだけ!

これを念頭に置いて、日ごろから生活してください。

思い出すだけで恐ろしい「津波」。みなさん、イメージできますか?

東日本大震災の津波!大きさ(高さ)は?ご存知でしょうか? 答えは、最大40.4mでした。

わかりやすくイメージとして、総曲輪の大和デパートの海拔8m。建物の高さは34mで、合わせても42mですよ。屋上にいてやっとかつと免れるのですよ!

呉羽山の標高は80m。これくらいまで逃げれたら、ほぼ安心!

富山に災害は、迷信の「立山神話」があることで、災害無縁県と思ってませんか?とんでもないです。

弥陀ヶ原(立山)の火山は今、噴火してもおかしくないのですよ!

フォッサマグナという言葉ご存じでしょうか?(糸魚川から静岡にかけての、北米プレートとフィリピンプレートの断層の重なりです)すなわち、きわめて、バランスの悪いところに住んでいるのですよ。

日ごろからしておくことは、

避難訓練を何回もやりましょう。非常用食品は最低家族人数1週間分が必要です。懐中電灯は、家族人数分そろえてください。

さまざまな方が共生するこの社会、健常者目線のルールづくりと同時に、社会的弱者=要配慮者の存在も念頭に置いた防災体制確立に尽力したいと考えています。



# 全難聴の正会員

富山中途失聴者・難聴者友の会が、2020年3月27日、一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会(全難聴) から正会員として、入会が認められました。入会日は4月1日です。

全難聴は、全国の難聴者・中途失聴者(以下「難聴者等」という)に対する施策の充実普及のための諸事業を行い、難聴者等に対する社会の理解を促進させるとともに、難聴者等のコミュニケーション手段等に関する調査研究等を行うことにより、障害者の社会的地位の向上と福祉の増進及び社会参加の促進に寄与することを目的とし、全国53団体が加盟している組織です。

## ヒアリングループシステムによる視聴

2019年11月16日 場所：富山県美術館

富山県美術館の3階ホールでは、企画展にあわせたトークイベントや上映会を開催するほか、体の動きで光のアートを創り出す「インタラクティブアート」を体験できます。その3階ホールではヒアリングループシステムも導入しているとのこと、友の会で視聴してきました。要約筆記者や人工内耳装用者を含めて8名で参加。館長さんをはじめ、富山県文化振興課の複数人から説明を受けました。

視聴者は補聴器に「T」または「MT」のスイッチがあるものに切り替え、スイッチのない補聴器装用者や、補聴器を利用されない方には受信機を借りて視聴しました。

受信する音情報は同時に2種類あり、①マイクからの音声、②音楽CDからの音情報、美術館側で設定されていました。

### 視聴者の感想

- ・ホール内では受信しにくい場所がある。
- ・館内の音情報がホール内では受信できない。
- ・マイクからの送信者の音声は男性か女性で聞き取りやすさが異なる。

### 要望したこと その1

- ・ループの表示について、東京国立博物館を参照にしてはどうか。→難しいとの回答。

### 要望したこと その2

- ・富山県美術館のバリアフリー情報の説明文にヒアリングループの記述を追記できないか。  
→数日後、富山県美術館ホームページの「その他の館内設備-バリアフリー情報」で修正済。

### ヒアリングループ (旧磁気誘導ループ)

音声信号を電気信号に変えてループアンテナで誘導磁界を発生させて聞くもので、ループアンテナのある設備と磁気コイル付きの補聴器や人工内耳などが必要になります。補聴器や人工内耳の「Tモード」、あるいは専用受信機で、音源の音が直接耳に届くので雑音や余計な残響音が入らないため聞き取りやすくなります。

補聴器などの「T」と「MT」の機能：「T」はテレコイルといわれる機能です。「M」は通常使用しているマイク機能です。「T」にすると補聴器の「M」マイク機能が停止し、磁気ループを通した音だけが聞こえるようになり、周囲の音は聞こえなくなります。「MT」はマイク機能と磁気ループの両方の音が聞こえます。

富山美術館常設展示場では  
展示作品の前にあるQRコードを読み取ることで、スマホで  
作品の詳細説明を文字で表示、音声で聞くことも可能

とみなん No.2 2020/6

編集・発行：特定非営利活動法人 富山中途失聴者・難聴者友の会

ホームページ <https://tominan.org>

メール：[kikoe\\_info@tominan.org](mailto:kikoe_info@tominan.org)

〒939-8045 富山市本郷町60-6